



令和7年8月28日  
中津川市立第一中学校  
学校報 NO.6  
生徒数 223人  
電話：0573-66-1534

## 当事者意識をもって平和を考える ～自分にできることは？～

校長 平岡 淳

世界各地で戦争や紛争が続き、緊迫する状況の中、日本では今年も平和について考える8月が今年もやってきました。

今年の5月に、第一中学校の3年生が平和について学び、合唱を披露した長崎平和公園では、8月9日に平和式典が挙行されました。

また、その3日前には広島でも平和式典が行われましたが、その平和式典の中で地元の小学6年生が「平和の誓い」を語る場面がありました。その平和への誓いの一部を引用します。



「多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。」（平和の誓い一部抜粋 裏面に全文引用）

世界的な平和を実現するために、私たちが今すぐできることはないのかもしれませんが、私たちの生活の中でできることはいくつかあります。「多様性を認め相手のことを理解しようとする」「相手の考えに寄り添うこと」「思いやりの心で話し合うこと」など、子ども代表が語りかけてくれたことは、私たち一人一人ができることです。第一中学校には、先輩たちから引き継いできた「一中宣言」があります。その中に、「私たちは相手の心や身体を傷つけません」「私たちはあたたかい言動を増やします」「感謝の気持ちをもち『ありがとう』を伝えます」とあります。このことこそが、平和へつながる行動だと思います。



これらの行動を大切にして、いじめのない学校を作っていくことが、平和な世の中を作っていく一つです。学校では「いじめ防止基本方針」をもとにして、誰もが安心して安全に生活できる学校づくりを進めています。

夏休み明けの生活も、生徒と共に、当事者意識をもって取り組む活動を大事にして、生徒の安心安全を第一に取り組んでいきたいと考えています。

(※) いじめ防止基本方針の詳細については、第一中学校ホームページを参照してください  
([https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/school/daiichi\\_jhs/index.html](https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/school/daiichi_jhs/index.html))



## 「子ども代表 平和への誓い」(全文)

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。  
同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。  
原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことがありますか。

昭和 20 年(1945 年)8 月 6 日午前 8 時 15 分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から 80 年がたつ今、本当はつらくて思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、わたしたちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。  
大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分の事として考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする事。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One Voice、たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、平和をもたらすことができるはずです。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を作り上げていきます。

令和7年(2025年)8月6日  
こども代表  
広島市内小学6年生

